

昭和61年度オキナワモズクの水揚及び養殖実態調査

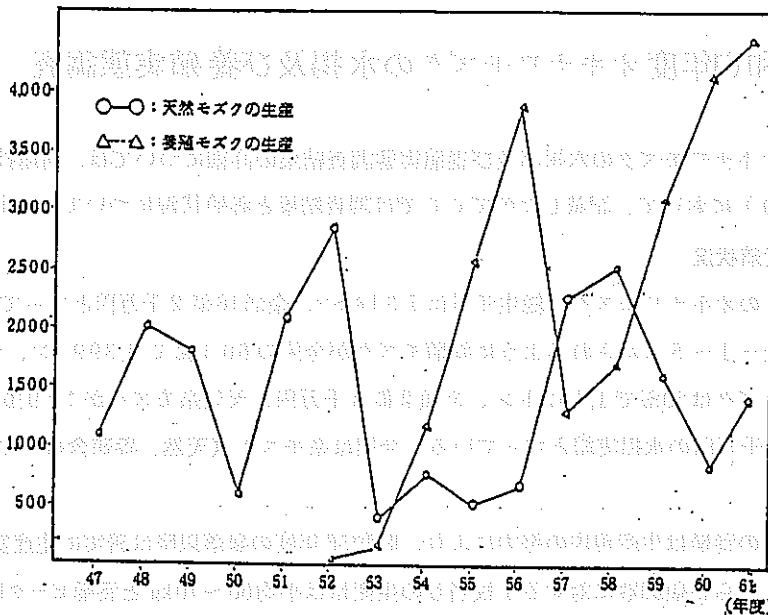
昭和61年度のオキナワモズクの水揚高及び養殖実態調査結果の詳細については、別途技術改良試験報告書（別刷り）において、記載したのでここでは調査結果と養殖状況についてだけ記す。

調査結果及び養殖状況

今期（61年度）のオキナワモズクの総生産量は7,314トン、金額16億2千万円となっている。その内訳は図-1、表-1～5に示されるように養殖モズクが全体の60.1%で4,399トン、金額10億2千万円、天然モズクは20%で1,462トン、金額2億3千万円、天然糸モズクが19.9%で1,452トン、金額3億5千万円の水揚実績となっている。今期は糸モズク（天然、養殖含む）の増産が特徴的である。

オキナワモズクの養殖は生産現場の努力により、昭和56年度の暴落以降は着実に生産実績を上げている。しかしながら養殖網数に対する1枚当りの生産量は平均60～70kgと養殖ピーク時の昭和55年～56年度の頃とほとんど変わっていない。なぜ変わっていないかということについて考えてみると、おおよそ次のようなことが考えられる。①採苗水温と芽落の関係、②中間育成漁場（苗床）の底質及び環境、③本張り漁場の潮流と生育との関係等養殖条件としてみたまされているかいなかによって毎年安定して生産を上げている地域とそうでない地域との差がでていように思われる。

モズク養殖は、採苗から沖出し、生育と相変わらず地域差が大きくわからないことばかりである。生産現場では、経験的に場所を変え、向きを変え苦勞しているようであるが、これといった解決策がなくむだな労力を余儀なくされているのが実態である。そういった状況の中でモズク養殖は専門者の漁業生産活動の「つなぎ」として、（地域によっては漁業生産の中心となっている）定着してきた。今後も関係者の力を結集して育てていきたいものである。最後に、調査に協力下さった市町村及び漁協に対し感謝申し上げます。（瀬底）



図一 養殖モズクと天然モズクの生産状況 (糸モズクは含まれてない)

表一 昭和61年度オキナワモズクの水揚げ及び養殖実態調査結果の総括表

養殖モズク (A)		天然モズク (B)		糸モズク (C) (天然、養殖含む)		総生産	
生産量 (kg)	金額 (円)	生産量 (kg)	金額 (円)	生産量 (kg)	金額 (円)	生産量 (kg) (A)+(B)+(C)	金額 (円) (A)+(B)+(C)
4,399,470 (60.1%)	1,027,013,040	1,462,821 (20.0%)	237,775,937	1,452,144 (19.0%)	358,601,005	7,314,435	1,623,389,982

$$\frac{A}{(A) + (B) + (C)} \times 100$$

(水揚げの順位)

① 養殖モズクについて

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| (1) 知念漁協 (816トン) | (2) 伊是名漁協 (770トン) | (3) 伊平屋漁協 (646トン) |
| (4) 平良市漁協 (507トン) | (5) 本部漁協 (467トン) | |

② 天然モズクについて

- | | | |
|------------------|-------------------|--------------------|
| (1) 勝連漁協 (628トン) | (2) 八重山漁協 (406トン) | (3) 宜野座漁業組合 (80トン) |
| (4) 沖縄市漁協 (77トン) | (5) 知念漁業 (69トン) | |

③ 糸モズクについて

- | | | |
|-------------------|-------------------|---------------------|
| (1) 平良市漁協 (496トン) | (2) 伊是名漁協 (379トン) | (3) 宜野座漁業組合 (142トン) |
| (4) 知念漁協 (93トン) | (5) 与那城漁協 (88トン) | |